

<データの種類>

- (1) 切断配管（小割後）に対するガンマカメラによる汚染分布
- (2) 切断配管（小割前）に対する線量率
- (3) 切断配管（細断後）からのスミア採取・分析
- (4) 切断配管（細断後）からのサンプル採取（輪切り配管の採取）・分析
- (5) 切断配管（細断前）の内部状況確認（映像及び画像データ）

<取得すべきデータ及び注意事項>

- (1) 切断配管（小割後）に対するガンマカメラによる汚染分布

【取得すべきデータ】

- ① 測定対象配管から8 m離れた位置からの測定（4種類の γ カメラ（東京電力の γ カメラ①、東京電力の γ カメラ②、JAEAの γ カメラ、規制庁の γ カメラ）にて同時に測定開始）
- ② 測定対象配管から4 m離れた位置からの測定（4種類の γ カメラ（東京電力の γ カメラ①、東京電力の γ カメラ②、JAEAの γ カメラ、規制庁の γ カメラ）にて同時に測定開始）
- ③ 各 γ カメラの特性を確認する。
- ④ 高線量を確認したサンプル片採取箇所に上下左右が認識出来るようにマーキングする。（マーキングの具体的な方法を決めておく。）

【注意事項】

- ① 8 m位置からの測定では、測定対象配管の全体が測定できるように画角を調整する。
- ② 4 m位置からの測定では、測定対象配管の全体が測定できるよう、必要に応じてターンテーブルで調整し配管全体を分割して測定する。
- ③ 4 m位置からの測定では、8 m位置で測定した結果、汚染が最も酷い箇所を画角の中心に測定する。
- ④ 配管サンプルの場所は規制庁のガンマカメラに基づき決定する。他のカメラは参考とする。

- (2) 切断配管（小割前）に対する線量率

【取得すべきデータ】

- ① 配管両端の線量測定を実施する。
（具体的な測定方法を決めておく）

【注意事項】

- ① 過度な被ばくとならないよう、テレクター等を使用し線量低減対策を検討する。

(3) 切断配管（細断後）からのスミア採取

【取得すべきデータ】

- ① スミアは、サンプル片採取予定の箇所から採取する。ウレタンが充填されスミアの採取が難しい場合は、細断した箇所等のウレタン未充填部から採取する。
- ② スミアは、配管内面の上下と片方の側面を採取する。

【注意事項】

- ① 上下と側面の識別が確認出来るよう保管する。

(4) 切断配管（細断後）からのサンプル採取（輪切り配管の採取）

【取得すべきデータ】

- ① 高線量箇所を確認した箇所の配管サンプルを採取する。(ウレタンが充填されていても分析可能であるため採取する。)
- ② ガンマカメラ測定時にマーキングした箇所のサンプル片を採取する。

【注意事項】

- ① 配管外周の防食テープの除去方法は検討中。

(5) 切断配管（細断前）の内部状況確認（映像及び画像データ）

【取得すべきデータ】

- ① 配管内面にカメラを挿入し、上下左右の配管内面の状態を撮影する。
- ② 配管内面はウレタン充填部からは取れないため、小割した箇所等のウレタン未充填部から撮影する。

【注意事項】

- ① 画像データを確認したときに上下左右が確認できるよう撮影方法を検討する。